

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

Vol.28 違法薬物には近づかない

令和6年版犯罪白書によると、令和5年に覚醒剤取締法違反で捕まった20歳以上の人の再犯率は67%でした。

覚せい剤やシンナーなどの違法薬物は、私たちの脳と体に大きな影響を及ぼします。強い依存性があるため、一度使うとやめられなくなります。また、繰り返し乱用しているうちに耐性がつき、同じ量では効かなくなります。繰り返し薬物を使用すると、脳に慢性的な異常状態が生じ、薬物をやめようと思っても自己コントロールできずに乱用を続けてしまいます。さらに乱用を繰り返すと、幻覚や妄想などの精神症状が引き起こされます。

「一度だけ」のつもりが薬物依存となり、あなたの人生が取り返しのつかない状態になってしまいます。再犯率の高さからも分かるように、依存からの回復には長い時間が必要です。あなたやあなたの大切な人を守るために、違法薬物には近づかないようにしましょう。

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

大阪・関西万博をきっかけに 外国人の人権を考える

世界中から多くの人が集まった大阪・関西万博は、私たちが普段触れることの少ないさまざまな言語や文化を知る貴重な場になりました。

「知らないことを知る」体験は、人権を考える上でとても大切です。異なる文化に触れることは、互いを理解し、尊重する姿勢を育む第一歩となります。

今後、私たちが暮らす地域で外国の方と接する機会はさらに増えていくと考えられます。「外国語が話せない」「どう声を掛ければいいのか分からない」といった不安から、関わることをためらってしまうこともあるでしょう。しかし、コミュニケーションの不足が外国人の孤立や人権侵害を生む原因になることもあります。

大切にしたいのは、言葉や習慣の違いを正しく理解し、互いの多様性を受け入れ、尊重し合う姿勢です。異なる文化や価値観への理解を深め、誰もが安心して暮らすことができる社会を共に築いていきましょう。

土岐商写真部×広報とき

土岐の写真を撮り隊

Vol. 30

「秋の終わりに見つけたもの」

秋の終わり、冷たい風によって冬の足音が近づいてきました。ころんと転がる栗の実、秋のやわらかさをそっと残してくれます。季節の移り変わりを感じながら、心も少しずつ冬の準備を。

撮影班 1年

海川愛梨・林 玲希・林 優名

